

よこそうをよりよく知るためのフリーマガジン

プロムナード

2023年

毎月1日発行

10月号

特集1 健診に行こう！

Vol.366

『あざみ野健診クリニック』

増量16P

『よこそうパートナーズ』

タイワトータル警備株式会社

よこそうニュース『新入職医師のご紹介』他

YOKOHAMA GENERAL HOSPITAL
AZAMINO CLINIC



TAKE FREE

連載

Dr.長田の認知症学事始
谷川博士のお薬よもやま話
教えて薬剤師さん

よこそう医療福祉情報局
マイフェイバリットプレイス
ワンダフルニャンダフル



医療法人社団緑成会横浜総合病院附属 あざみ野健診クリニック

ご紹介

横浜総合病院附属あざみ野健診クリニックでは、落ち着いた雰囲気の中で、ゆったりとご自身の健康と向き合えるよう、健康維持・増進のための健康相談をはじめ、ワンランク上のより質の高い健康的な日常生活を送るためのサポートをさせていただけるよう各種健康診断、人間ドック標準コースに加え、メモリードック・脳ドック、肺がんドック、心臓血管ドック、歯科ドック、乳がん及び子宮がん検診など各種オプション検査を幅広く承っております。

検査の結果の二次検査や精密検査、発見された病気の治療にあたっては、全科そろった横浜総合病院の各診療科と連携し、万全の体制で包括的な健康サポートを提供してまいります。

教えて先生!



長田 乾
あざみ野健診
クリニック施設長
神経内科医

Q どうして健診に行くの？

A 健診は全身の健康状態をチェックし、病気の危険因子があるか否かをみます。生活習慣病や三大疾患（脳疾患、心疾患、がん）の予防、早期発見を目的としています。「ご自身は健康であると感じている人が、病気のリスクはないか、すでに病気をお持ちではないか」を確かめ、病気のリスクを減らすこと、また病気を早期に発見し、早期治療に繋げるようにすることが大切です。

Q どんな検査があるの？

A 基本コースでは身体計測、尿検査、血液検査、血圧測定、心電図、視力、眼圧、眼底、聴力検査、胸部X線検査、腹部超音波検査、胃内視鏡など多岐にわたり検査を行います。その他にも乳がん、子宮がん検査や大腸内視鏡検査、胸部CT検査、脳画像検査、心臓血管系画像検査などのオプション検査も充実しております。詳細はHPにてご確認ください。



原 砂織
あざみ野健診
クリニックセンター長
消化器外科医

Q 人間ドックって？

A 人間ドックでは職場の定期健診や地域のがん検診、基本健康診査よりも充実した検査項目や診察が行われます。基本コースに加え、ご自身の気になる病気や部位に合わせご希望に応じて複数のオプション検査が選択可能です。

Q 受診する頻度は年に一度くらいで良いの？

A まだ若いから」「健康には自身があるから」という過信は禁物です。生活習慣病を未然に防ぐためには、年1回を目安に人間ドックを受診するのが理想的です。10年後、20年後、健康で充実した生活をおくるためにも、定期的な人間ドックのご利用をお勧めします。

先生より

検査結果を踏まえて、受診なさる方の価値観や不安により添いながら、ライフスタイルに応じて生活習慣などを改善するアドバイスや次回の検査時期などをご提案させていただきます。またより詳しい検査が必要な際は横浜総合病院への速やかな橋渡しを含め、お一人おひとりの状況に合わせたご提案をさせていただきます。健康で充実した生活をお送り頂くために、定期的に人間ドックをご利用下さい。

施設



【入口～受付】市営地下鉄、田園都市線あざみ野駅より徒歩1分とアクセスも良好です。



【診察】検査結果をもとに患者さんお一人おひとりに合った、健康のための様々なアドバイスをご提案します。



【待合室】静かで広々とした院内。落ち着いた雰囲気のなかでお待ちいただけます。



【スタッフ】明るい笑顔と丁寧な対応を心掛けています。ご不明な点はお気軽にお尋ねください



地域の皆様の健康を守るために病気の早期発見・早期治療。年1回のドック受診をお勧めしております。

人間ドックの歴史と由来

80年以上前に日本で産声をあげた人間ドックを、最初に組織的に行ったのは、1954年（昭和29年）7月12日、国立東京第一病院（現在の国立国際医療研究センター）といわれています。次いで聖路加国際病院など、全国の病院や施設で人間ドックが創設されました。

ちなみに「ドック」は病院という意味の俗語もあるようですが、一般的には船を点検・修理するためのドック（dock）に由来するといわれています。船が長い航海のあと点検・修理のためにドックに入るように、人間も定期的にドックに入る必要がある、という考えから生まれた言葉と思われる。

ご利用に際して

- ・ご予約はお電話で承ります。完全予約制となっております。
- ・人間ドックは原則自費診療となります。健康保険のご利用はできません。

電話受付時間
平日 9:00～12:00
13:30～16:00
土曜 9:00～12:00

予約・お問い合わせ電話番号
045-522-6300

※詳しくはあざみ野健診クリニックホームページをご覧ください。

施設概要

医療法人社団緑成会横浜総合病院附属
あざみ野健診クリニック

〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-2-9
あざみ野第3ビル4F
TEL:045-903-6300
FAX045-903-0777



azamino-clinic.com



『簡単に諦めず、患者さんの
親身になって考えなさい』

院長先生の「よこそうism」を
若い世代に引き継ぎたいと思
います。

小泉 周也 / Shuya Koizumi

リハビリ科長代理
理学療法士 認定理学療法士(脳卒中)
平成18年10月11日入職
趣味 : ゴルフ サウナ 軽い筋トレ ドラマ
好きな言葉 : 穏やか
好きな食べ物 : カレー ハンバーグ お菓子
最近ハマっているもの : 小説を読んで寝る



様々な病気やケガにより具合が悪くなった身体を応援する「リハビリテーション」。
よこそうびと第6回はリハビリ部・小泉周也さんのインタビューをお送りいたします。



——現在の小泉さんが担当されている
仕事について教えてください。

科長代理業務と脳神経外科、循環器、心臓血管外科、産婦人科チームの主任をしており今年で入職し15年目になります。現在は若いスタッフの育成・指導を行う一方で全部署へのフォローに入り臨床をサポートしています。

よこそうは総合病院という性格上、リハビリオーダー件数が多いのが特徴です。スタッフの数が足りない時や、急な欠勤が生じた際などは代行役になることが多いです。

——今までの仕事を振り返って印象に
残っている出来事などはありますか？

10年前くらいでしょうか、患者さんで自分が初めて聞く症例の方が入院され、どのような処置を行うか悩んでいた時に、平元院長より「簡単に諦めず、患者さんの親身になって考えなさい」と言われ、学会などに出向き症状について学んだ経験は印象に残っています。

その時に習った院長先生の「よこそうism」を若い世代に引き継ぎたいと思います。



——現在の仕事を選んだきっかけについて、伺わせてください。

幼稚園からサッカーをしており、高校生の時に左腕の骨折と左足の靭帯断裂を同時に経験しました。その際にリハビリを行なったことが現在の仕事を選んだきっかけです。

この道に進もうと思ったのは16歳くらいだと思います。



——趣味について教えてください

コロナ前はフットサルなど仲間が集まってやれることをしていましたが、最近は個人でも行える、ゴルフやサウナ、寝る前に小説を読んでいます。

ゴルフは職場の同僚や後輩達とショートコースを回ったりしてリフレッシュしています。



——所属しているリハビリ部について教えてください。

約50名程度のスタッフで各科ごとのチーム制で活動しております。入院患者さんへのリハビリ以外にも外来リハビリ、訪問リハビリ、スポーツトレーニング指導なども行っています。世代的には20代前半から40代後半までのスタッフが所属しているので話の幅なども幅が広いと思います。

またリハビリ部は総じて元気というイメージが他部署からは持たれているようです。

——よこそうはどんな病院ですか？

部署間の距離が近く、色々なことを相談しやすい病院だと思います。各部署の強みを活かしながらチームで患者さんを診ることができると思います。

私はそんなよこそうが大好きでこれからも長く働き続けたいと思っています。

——読者の皆さんへ一言お願いします。

今後とも、横総、リハビリテーション部をよろしくお願いいたします。

院内を目まぐるしく移動している事が多いので、見かけたら気軽にお声がけください。

小泉さん、本日はお忙しいところ
ありがとうございました



よこそう
「部署間の距離が近く、色々なことを
相談しやすい病院だと思います。」





認知症学事始

にんちしょうがくごとはじめ

COVID-19の影響

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、2019年12月に中国で初めて確認され、2020年3月には世界保健機関 (WHO) がパンデミック (世界的大流行) と表明し、2023年3月には世界の累計感染者は6億人を超えました。2023年5月8日から我が国では、感染症法上の位置付けは「5類」になりましたが、その後も全国的に感染者数は依然多い傾向が続いています。COVID-19は、呼吸器系の症状のみならず、さまざまな神経症状を呈し、認知機能低下を来すことも明らかにされています。

Long COVIDとBrain Fog

COVID-19は、発症から4週間までの急性期には、めまい、頭痛、嗅覚障害、味覚障害、睡眠障害などの神経症状を呈する頻度が高く、重症例では脳梗塞、脳出血、静脈血栓症、急性脳症などを合併することがあり、後遺症として認知機能低下につながると考えられます。また、発症4週間以降の慢性期の症状や後遺症は、「Long COVID」と呼ばれ、疲労感、呼吸困難、せきなどの症状に混じって、注意散漫や記憶障害などの認知機能障害も認められます。米国の調査では、COVID-19感染後1年間のアルツハイマー型認知症の発症リスクは、非感染者と比較

して、85歳以上の高齢者で1.89倍、75歳から84歳で1.69倍という結果で、COVID-19はアルツハイマー型認知症のリスクを上昇させる可能性が示唆されています。COVID-19感染者が慢性期に訴える頭痛や眩暈感に加えて、「頭がスッキリしない」、「ボンヤリする」、「集中力が続かない」、「やる気が湧かない」といった自覚症状は「Brain fog」などと表現され、感染者全体の約3割に認められると報告されていますが、直接的な因果関係は明らかにされていません。

社会ネットワークからの離脱

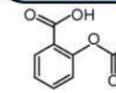
家族との交流、社会参加、外出、介護サービスの活用、運動習慣などは認知機能低下の予防に有効とされますが、COVID-19の蔓延によって、長期にわたる外出自粛、隔離、行動制限は、外出の機会の減少に加えて、家族や親戚、友人・知人、近隣住民と交流する機会が著しく減少し、医療機関を受診する頻度も減少し、さらに介護サービスの利用を中断・中止するなど、社会ネットワークから離脱して引き籠り状態に陥ったことは否めず、更にはテレビのワイドショーやSNSを介したCOVID-19にまつわる扇情的で不確実な情報の氾濫に当事者のみならず、その家族や介護者が翻弄されたことなども複雑に絡み合っ、高齢者の認知機能低下を加速させる方向に働いたと解釈することができます。



次号連載第十四回
に続きます

お薬にまつわる
あんな話こんな話
そんな話

谷川博士の



お薬よもやま話



薬剤部副部長
谷川 浩司

<連載第7回>

Illustration by Ken Nagata

お薬の名前あれこれ

■今回は前回からの続きで、お薬の「排泄」についてお話を予定でした。がしかし、筆者の完全な個人的都合 (つまり原稿が間に合わなかった…) により、テーマを大幅に変えてエッセイ風に仕上げてみました。

■唐突ですが富士山はなぜ「富士山」と呼ぶ/書くのでしょうか? ネットで検索するとたくさんの説があるようですが、国土交通省ホームページによれば「フジ」という読みが文献に初登場するのは「万葉集」(7~8世紀)のころで、当て字としては「不尽」、「布土」、「不二」など様々であり、「富士」という文字の初登場は「続日本紀」(8世紀末)で、天応元年の小噴火について触れているそうです。また「フジ」の意味については諸説あり、竹取物語(9世紀後半)の一節、帝の使者が「あまた」(富)の「つわもの」(土)を率いて登ったという説、かぐや姫が天に帰る際、帝の使者が山頂で帝宛の手紙と不死(フジ)の薬を焼いた説、またアイヌ語の「フチ」(火)または「フンチ」(火山)が「フジ」に転じた説などさまざまです。時代が微妙に合わない気もしますが、竹取物語が由来などはとてもロマンチックかもしれません。

■このように「もの」や「こと」がらには名前があり、諸説あれど何らかの由来を持っていることが多いです。皆さんが服用しているお薬も同様で「こんなの覚えられないよ…」といったヘンテコな名前でも、それなりに意味があったりします。今回はこのようなお薬の名前についてその由来も含めてお話ししますので、お茶でも飲みながら適宜、ツッコミを入れてみてください。

■リバゼブ配合錠という高コレステロール血症を治療するお薬があります。これはリバロ錠 (有効成分: ピタバスタチン) とゼチーア錠 (有効成分: エゼチミブ) の有効成分が合わさったもの (配合剤) です。奏効部位が異なる2種類のお薬を合わせることで、より良質な効果を期待しようというわけです。そう、もうお分かりですね。リバロ (livalo) とエゼチミブ (eze-

timibe) を合わせて「livazebe」(リバゼブ) となったわけです。このように有効成分の一部から、お薬の名前を構成するという方法をとるパターンがあります。このお薬は有効成分の量によってリバゼブ錠LDとリバゼブ錠HDの2種類があり、いずれも服用方法は通常、1日1回1錠を食後となっています。朝食後でも昼食後でも夕食後でも構わないのですが、医師や薬剤師の指示があればその通りに、また朝食後なら朝食後に決めて同じタイミングで服用を続けるようにしましょう。ちなみにリバロ錠は「lipid and vascular event lowering」(脂質と血管イベントの低下) から「livalo」(リバロ)、ゼチーア錠は「ezetimibe」(有効成分名) が転じて「zetia」(ゼチーア) と、名前の由来が異なったりします。おもしろいですね。

■心房細動や静脈血栓症をお持ちで、イグザレルト錠というお薬を服用されている方がおられるかもしれません。心房細動では心房内での乱流の発生により微小な血栓ができ、これが全身に飛んで血管を詰まらせることがあります。この血栓の生成を防ぐために、抗凝固薬というお薬を服用することがありますが、イグザレルト錠はそのうちの一つです。血栓を作る大きな要因となる凝固因子で「第Xa因子」という生体内物質があります。イグザレルト錠はこの第Xa因子 (factor Xa) の機能を邪魔 (阻害) することで、血栓の生成を予防します。そう、もうお分かりですね。「factor Xa」の「Xa」(イグザ) が転じて「Xarelto」(イグザレルト) となったわけです。このお薬は10mgと15mgの2種類があり、1日1回 (または2回) 1回1錠 (15mg) を食後に服用しますが、腎臓の機能に応じて10mgを服用することもあります。このお薬は血栓を予防するものですが、これはつまり血が固まりにくくなるということであり、出血についてはとても注意が必要です。

■さて、今回は予定通りお薬の「排泄」をお届けすることができそうです。また、お会いしましょう。

次号も博士のよもやまが続きます





今月紹介するパートナーはよこそうの警備業務全般を請け負っていただいているタイワTOTAL警備株式会社さんです。
 駐車場内における車両誘導警備や、施設内での点検業務まで24時間幅広い分野で安全な病院運営を支えて下さっています。

業務紹介

- ① 駐車場における交通誘導業務
- ② 施設内の巡回警備などセキュリティ全般
- ③ 駐車場管理業務

当院は数多くの人達の手によって運営されています。
 こちらのコーナーではその中でも病院の運営を常に支えてくれているパートナー企業さんを紹介します。

スタッフさん紹介



【氏名】
杉本誠二さん
 【出身地】
北海道札幌市
 【好きな食べ物】
鶏の唐揚げ
 【趣味】
プロボクシングの
試合鑑賞

杉本さんの1日

8:00 10:00 12:00 14:00 16:00 18:00 20:00 22:00 24:00 2:00 4:00 6:00 8:00

正面入り口交通誘導	防災センター守衛	ロータリー交通誘導	休憩	正面入り口交通誘導	ロータリー交通誘導	防災センター守衛	ロータリー交通誘導	防災センター守衛	照明点灯	西口・正面玄関施設	休憩	院内巡回及び施設	休憩	1階～4階巡回	最終巡回	搬入口消灯・防災センター施設	仮眠	搬入口開錠	休憩	1階2階開錠	3階4階巡回	巡回・通用口等開錠	ロータリー交通誘導
-----------	----------	-----------	----	-----------	-----------	----------	-----------	----------	------	-----------	----	----------	----	---------	------	----------------	----	-------	----	--------	--------	-----------	-----------

～私たちは病院警備業務のスペシャリスト集団です～



いつも元気な杉本さんは張りのある声と笑顔がトレードマークの警備員さんです。警備員歴はなんと10年の大ベテラン、警備のことは聞くとなんでも答えて下さいます。そんな杉本さんのお仕事について聞いてきました。

Q

仕事をされている中で大変だと思うことはどのようなことですか？

A

駐車場が満車の時は誘導が大変ですね。患者さんにはご迷惑をおかけして申し訳ないと思っています。

Q

よこそうはどのような病院ですか？

A

職員の皆さんはいつも笑顔であいさつしてくれます。明るくて元気な方が多いので、私たちも元気づけられますね。よこそうは地域に密着した優しい病院だと思います。



朝の正面玄関は特に混雑しています。歩行者の安全を確保し、的確な誘導で車両のスムーズな流れを作ります。



診療時間などにあわせて順次施設が行われます。院内の安全管理のために照明の点灯・消灯も管理しています。



院内にも施設する箇所が多々あります。各病棟はもちろん、救急外来など病院は二十四時間動き続けています。



深夜の院内。場所によっては懐中電灯が必要で、地震や火災などの災害にも備えてくまなく巡回します。



業務開始からなんと二十四時間！本当にお疲れ様です。安全・安心を守る警備員さんのおかげでまた病院の新しい一日が始まります。



秦野市と清川村を結ぶ県道70号秦野清川線。そのうちヤビツ峠から宮ヶ瀬湖までの区間は通称“裏ヤビツ”と呼ばれており、東京・神奈川近郊では珍しいほどの深い緑を抜ける林間の道となっています。

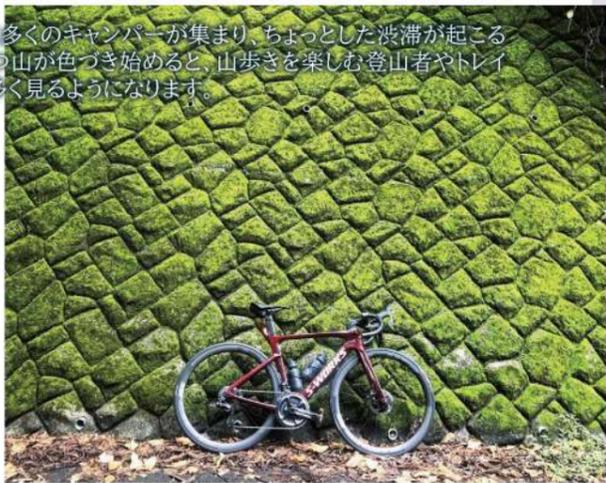


自然と人と

【裏ヤビツ】(県道70号秦野清川線)
秦野市～愛甲郡清川村



夏の間は近くを流れる清流沿いに多くのキャンパーが集まり、ちょっとした渋滞が起こる裏ヤビツですが、夏も終わり少しずつ山が色づき始めると、山歩きを楽しむ登山者やトレイルランナー、サイクリストなどの姿を多く見るようになります。



市街に近いが故の環境問題も起きている丹沢エリアですが、自然への気づきを忘れずに、身近な大自然に触れてみてはいかがでしょうか。(総務課)
*お出掛けの際は一人ひとりが自然を守る心掛けをお願いいたします。

ワンダフルニャンダフル♪

チンチラ特集

ただただ可愛い!!

主食は牧草
お野菜も好き



ぽぽちゃん 5歳 ♂
チンチラ-モザイク (パイド)



もふ

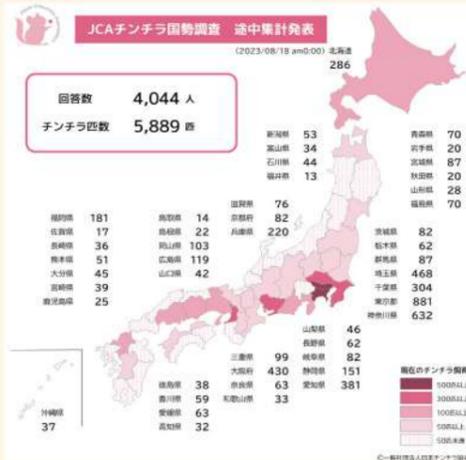
もふ

飼育ポイント

なるべくチンチラにストレスが掛からないように部屋の中で走り回れる時間を多くとっています。げっ歯類なので電気コードや家具、壁など、あちこち噛んでしまうので、コード類や壁の保護、見守りが必要です。(看護部)

どんな生き物なの??

学名 Chinchilla lanigera Bennett
分類 齧歯目チンチラ科チンチラ属
全長 22~38 cm
分布 南アメリカ南西部(アンデス山脈)
標高400 - 1,650メートルの地域に生息する。薪用の森林伐採・鉱石用の採掘・放牧による生息地の破壊、毛皮用の狩猟などにより生息数は減少している。



全国で5889匹

日本チンチラ協会が公表している国内の飼育匹数 (2023年8月18日現在)

ペットとしてもとても希少!

野生のチンチラは山地で岩場の割れ目などに巣を作り群れて生活をしている。

かくれんぼ中??



尻尾もふさふさ! 寒さから身を守るため毛は長くて柔らかい。



薬の専門家が 答えます！ 教えて！ **薬剤師** さん お薬に関する ヒントを



(薬剤師 河村 有理)



Q: お薬をお渡しするまで
薬剤師は何をしているん
ですか？



A: 様々な情報から患者さん
に適切な処方なのか判断
しています。

📌 薬剤師は「調剤」をしています 📌

薬剤師は医師の処方箋に基づいてお薬を集め患者さんにお渡ししていますが、“ただお薬を集めてお渡ししているだけ”ではありません。

薬剤師の仕事は「調剤」であって「お薬集め」ではありません。そして法的には「お薬集め」は薬剤師以外でもできるのですが、「調剤」は薬剤師にしかできないのです。

📌 処方鑑査・疑義照会 📌

調剤ではまず処方箋の内容が適切であるかどうかを評価(①処方鑑査)して、必要に応じて処方した医師に確認(①'疑義照会)の上内容を変更し、正しい処方内容とします。次に処方鑑査が終了した正しい処方箋に基づいて、必要なお薬を調合したり集めたりします。このうちお薬を集めることが、上で述べた「②お薬集め」に当たります。つまり「お薬集め」は「調剤」のほんの一部ということです。必要なお薬がすべて揃ったら処方箋の内容と、お薬やお薬の袋の記載が一致しているかを確認します(③最終監査)。最終監査後に患者さんへお薬を渡しつつ、適切な説明をします(④投薬)。



次回は「お薬集め」以降のお仕事内容を紹介したいと思います。皆様もご自分で服用されているお薬のことで疑問などありましたら、薬局窓口でお薬を受け取る際に薬剤師までお気軽にご相談ください。

よこそう 医療福祉情報局 No.7

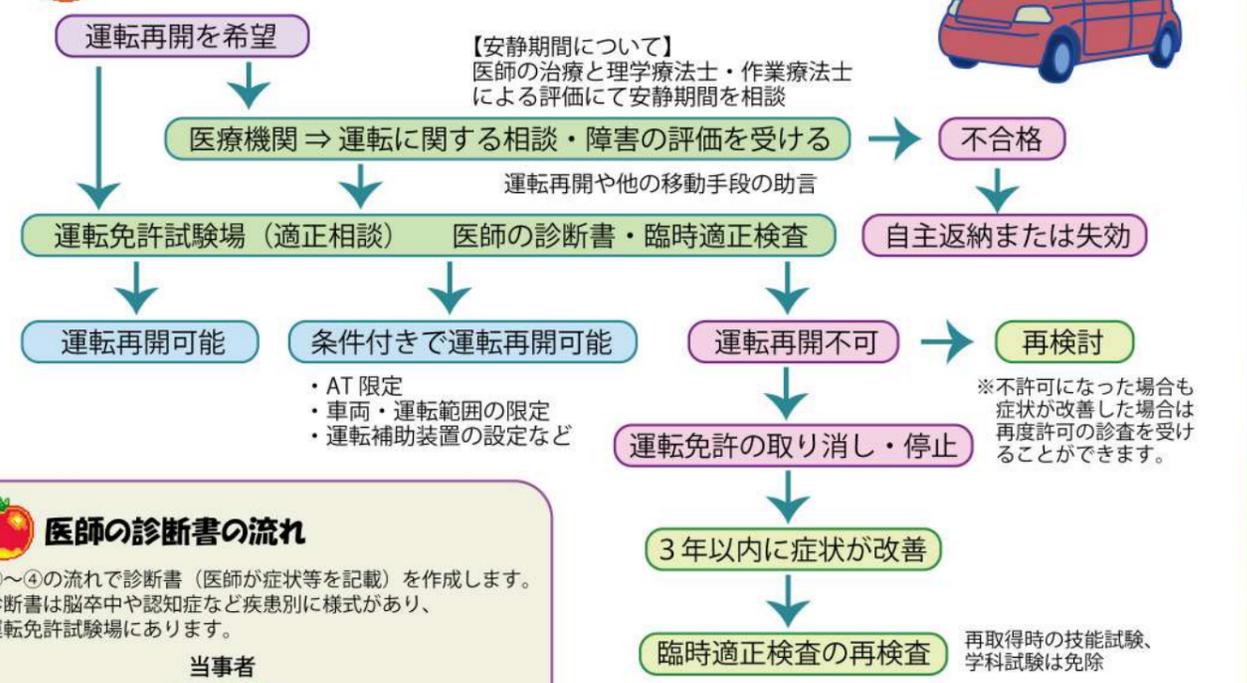
安全に自動車運転を再開するための手続きを紹介します。

一定の病気等により
運転に支障がある場合は
運転適性相談が必要です。

🍎 安全な自動車運転に向けて

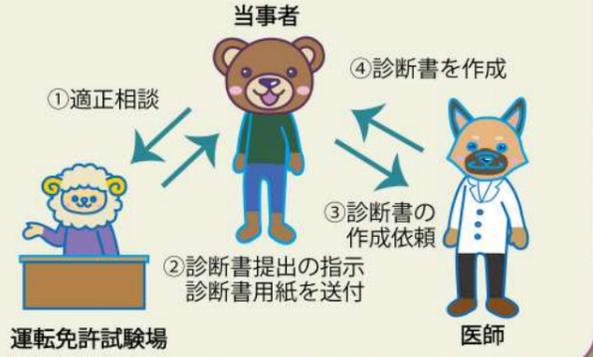
一定の病気等※により、自動車等の運転に支障がある方、または入院などで更新手続きができなかった場合は、症状によって運転免許が取得できなかったり、一定期間取消されたりする場合があります。臨時適正検査の受検又は医師の診断書の提出が必要となる場合があります。該当する方は、運転免許試験場の安全運転相談室へ相談しましょう。

🍎 運転再開の流れ



🍎 医師の診断書の流れ

※①～④の流れで診断書(医師が症状等を記載)を作成します。
※診断書は脳卒中や認知症など疾患別に様式があり、
運転免許試験場にあります。



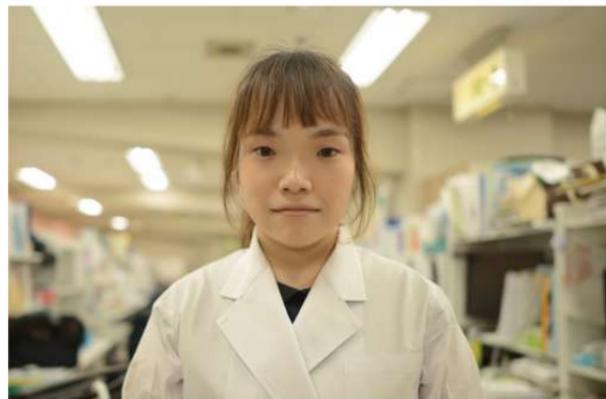
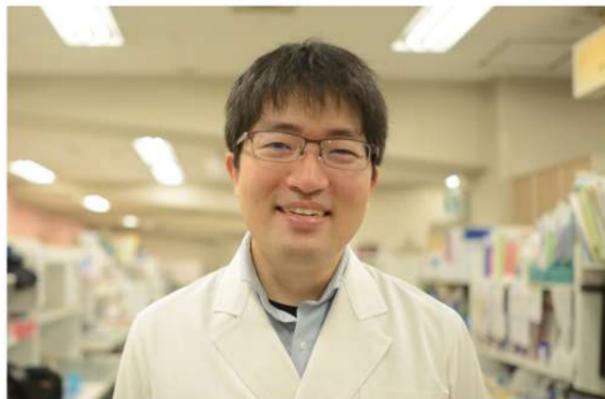
※一定の病気等とは…認知症・統合失調症・てんかん・再発性の失神、そううつ病、そう病、うつ病無自覚性の低血糖症、重度の眩暈の症状を呈する睡眠障害・アルコール依存症等その他安全な運転に支障のある方(半盲等の視野障害、高次機能障害により注意障害等がある、病気により体が思うように動かせないことがある等)



横浜総合病院の相談窓口は地域医療総合支援センターです。
お気軽にお声かけください。☎ 045-903-7152 (患者相談室)
参考: 警視庁HP「運転適性相談・身体に障害がある方の相談」
『脳卒中・脳外傷者のためのお助けガイド』2023, 長谷川幸子・長田乾・長谷川幹
『脳卒中後の自動車運転再開支援-安全な自動車運転に向けて-』
横浜総合病院リハビリテーション部 作業療法部門

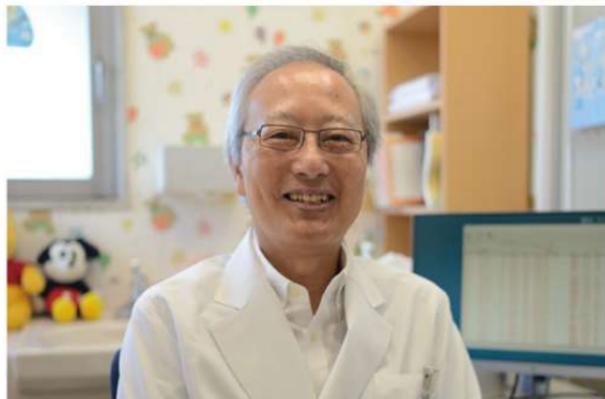
Text & Illustration by
Masami Honna
(Medical Social Worker)

新入職医師のご紹介



黒須 智彦 / Tomohiko Kurosu
内科医 聖マリアンナ医科大学(2020年卒)
ひとこと: 丁寧な診療を心掛けますので宜しくお願いします。

佐藤 菜摘美 / Natsumi Sato
内科医 聖マリアンナ医科大学(2020年卒)
ひとこと: 診療において分からないことなどがあればお気軽にお尋ねください。



山本 仁 / Hitoshi Yamamoto
小児科医 聖マリアンナ医科大学(1979年卒)
ひとこと: こどものてんかんを中心に診療してまいります。

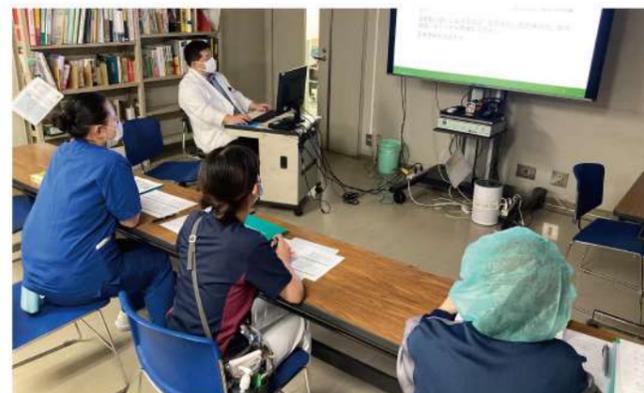
新刊のご案内



神経内科・長田医師の新刊「認知症になりにくい人・なりやすい人の習慣」が8/31(木)発売されました。
“本書では、多くの認知症患者を診察した認知症専門医である著者が、その傾向を解説。明日からできる認知症対策が見える1冊とする”(解説より)
全国の書店・通販サイトにてお求めください。

新入職看護師を対象とした院内講習を行いました

9/5(火)に新入職看護師を対象にした薬剤部による医薬品安全取扱い院内講習を行いました。
研修では薬品の取り扱い方法や管理方法についてなど、医療安全に繋がる項目を重点的に学習しました。



リハビリブログを開設しました

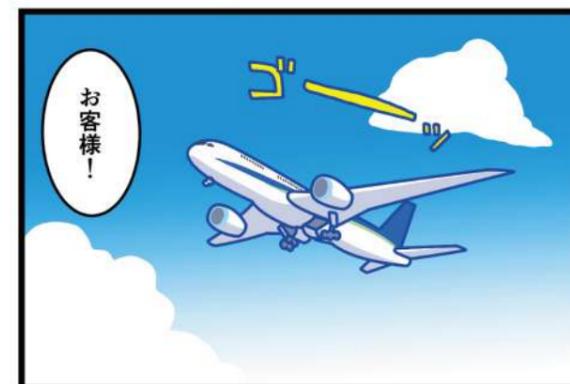
リハビリ部員による渾身の現場レポート、とても面白い内容ですので是非ご一読下さい。



<https://note.com/yokosoureha>

3丁目BAND SPECIAL LIVEに参加しました

9/23(土)にたまプラーザ「3丁目カフェ」にてたまプラーザまもりあいプロジェクトが主催する音楽イベントに参加しました。会場は熱気に包まれ盛り上がったライブでした。



認知症マフへの取り組みがタウンニュースに掲載されました



認知症ケアに使用される筒状のニット「認知症マフ」に関する説明会が大場地域ケアプラザで開かれました。当院より看護師・社会福祉士2名が講師として招かれました。編み方の講習会なども行われ、今後も定期的に交流会などを開いていこうです。
詳しい内容についてはタウンニュースに掲載されていますのでご覧ください。



<https://www.townnews.co.jp/0101/2023/09/07/695720.html>

人間ドックのご案内

～年に一度の健康チェックを～

私たちは定期的な健診をお受けいただくことで、皆様の健康管理、疾患予防のお役に立ちたいと願っております。ご受診を心よりお待ちしております。

- ・インターネット予約
- ・あざみ野駅より徒歩1分
- ・総合病院との連携



医療法人社団緑成会 横浜総合病院附属
あざみ野健診クリニック

〒225-0011
横浜市青葉区あざみ野2-2-9
あざみ野第3ビル4F
TEL:045-522-6300
FAX:045-903-0777
Web:azamino-clinic.com

横浜総合病院のご案内



循環バス

あざみ野駅、青葉台駅、鶴川駅、奈良北団地、こどもの国駅、麻生、すすき野方面より当院直通バスを運行しております。詳しくは下記HPをご覧ください。

路線バス

東急田園都市線「あざみ野駅」から「あ27系統すすき野団地」行き「もみの木台」下車徒歩7分
小田急線「新百合ヶ丘駅」から「新23系統あざみ野駅」行き「もみの木台」下車徒歩7分

診察時間

午前	受付	8:00～11:30
	診察	9:00～12:00
午後	受付	1:30～ 4:30
	診察	2:00～ 5:00



【編集後記】

暑い夏がようやく終わりを迎えたようですね。寒暖差に秋バテしそうです。今年は、また台風や大雨の影響で、各地被害が心配されます。さて、プロムナード10月号いかがでしたか？今号の特集はあざみ野健診クリニックです。取材を通じ疾病予防について学ぶ機会を頂き、人間ドックを受診してみようと思えるようになりました。最後に、制作に協力して下さった職員の皆様にお礼申し上げます。

(TOMO KAWAI)

新年度の健康診断に引っかけから3か月あまり。肝臓の数値を正常に戻すべく毎朝のウォーキングを始めたところ、普段では見ることのなかつた地域の店舗や公園・史跡など様々なものを目にする機会に恵まれました。朝ごはんもきちんと取れ、規則的な生活も送れるといういいことずくめの習慣です。あとは数値さえ戻れば…。今月号も無事に脱稿できましたことを関係各位に厚く御礼申し上げます。

(TAKEHITO OGOMA)

プロムナード VOL.366

発行日:2023年10月1日
制作・編集 医療法人社団 緑成会 横浜総合病院
総務課『プロムナード』編集室

発行人:岩坪新

〒225-0025
横浜市青葉区鉄町2201-5
TEL 045-902-0001